

果肉が赤く甘い食味のリンゴ新品種 ‘ルビースイート’

SATテクノロジー・ショーケース2015

■ 育成の背景・経過

果樹の6次産業化の進展に伴い、付加価値の高い多様なリンゴ品種開発への期待が高まっている。最近、果肉にアントシアニンを含む赤肉品種の果実が市場に流通し始めているが、これまでの赤肉品種は、肉質が粗く、甘味が少なく酸味が非常に多いため、生食用には適さない。そこで、主要品種と同等に甘くて食味が良く、加工品製造にも利用できる赤肉品種の育成を目指した。

‘ルビースイート’は、1993年に果樹試験場盛岡支場（現 農研機構果樹研究所リンゴ研究拠点）において、赤肉のJP114069（リンゴ属遺伝資源）に‘ふじ’を交雑した実生から選抜して育成した品種である。2003年に初結実し、2008年に一次選抜した。2010年より特性調査を行った結果、果肉が赤く着色して品質が良好であることから、2012年に新品種候補として選抜し、2013年に新品種‘ルビースイート’と命名して公表した。

■ 品種の特性

1. 樹体

樹勢は中位で、短果枝の着生は中程度である。枝の太さは中位、色は赤褐色であり、蕾の色は濃赤色である。育成地（岩手県盛岡市）における開花期は5月中旬で、‘ふじ’とほぼ同時期である。成熟期は育成地で10月中旬前後となり、‘紅玉’と同時期に収穫できる中生種である。後期落果の発生程度は無～少で、‘紅玉’と同様に少ない。

2. 果実

果皮は赤色で着色は多く、縞が明瞭である（図1）。果皮にさびはほとんど発生しないが、スカーフスキングがやや多く発生する。果実重は450g前後と大果で、‘紅玉’より200g以上重い。果肉が淡赤色～赤色に着色し、果肉色が黄白色である‘紅玉’とは明瞭に異なる（図2）。果肉の硬さと肉質はともに中位である。果汁の量は中ないしやや多い。本品種の糖度は14.5%前後であり、‘ピンクパール’など既存の赤肉品種より高い。酸度は0.36g/100ml程度であり、‘ピンクパール’や‘紅玉’より0.6～0.7g/100ml低い。蜜の発生量は少なく、心かびはほとんど発生しない。室温での果実の日持ちおよび低温での貯蔵期間はやや短い。

3. 栽培上の留意点

果実肥大が良好な中生品種であることから、北海道な

ど冷涼な地域も含めて既存のリンゴ栽培地域で利用可能であると考えられるが、系統適応性検定試験に供試されていないため、栽培適地について今後の検討が必要である。

本品種は成木期の樹勢は中程度であるが、栽培条件によっては幼木期の生育が旺盛となり、結実初期の果実が著しく大果となる場合がある。このような果実では果肉着色が不良で、品質が劣り、裂果の発生も多くなるため、適正な果実肥培管理を行うことが重要となる。

■ 関連情報等（特許関係、施設）

種苗法による品種登録出願中（品種登録出願番号 第28,422号）



図1 ‘ルビースイート’の結実状況

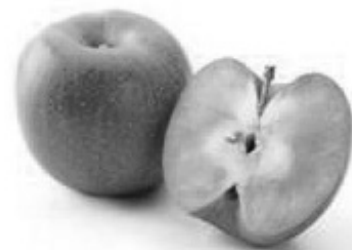


図2 ‘ルビースイート’果実

代表発表者 阿部 和幸（あべ かずゆき）

所属 (独)農研機構
果樹研究所

問合せ先 〒020-0123 岩手県盛岡市下厨川字鍋屋敷 92-24
TEL:019-641-3164 FAX:019-641-3819

■キーワード: (1)リンゴ
(2)新品種
(3)赤肉